令和2年度第4回恵庭市社会福祉審議会・障害者福祉専門部会議事録

第1. 開催日時 令和3年2月12日（金） 10:00～10:30

第2. 開催場所 恵庭市民会館2階 大会議室

第3. 出席者

【出席委員】津田部会長、泉副部会長、佐山委員、寺田委員、高橋友春委員
高橋光彦委員、高橋正俊委員、笹嶋委員、武田委員、下原委員
9名

【欠席委員】葉袋委員 1名

【傍聴者】 1名

【事務局】保健福祉部長、保健福祉部次長、子ども未来部長、子ども未来部次長
子ども発達支援センター長、子ども家庭課長、障がい福祉課長、
子ども家庭課相談支援担当主査、障がい福祉課主査、同スタッフ

第4. 内 容

1 開会

2 部会長挨拶

3 議事

(1) 次期えにわ障がい福祉プラン（案）について

(2) 恵庭市障がい者相談支援事業の公募結果について

(3) 農福連携事業について

(4) 恵庭市手話言語条例による施策を推進するための具体的取組みについて

(5) その他

・恵庭市介護事業所及び障がい事業所における新型コロナウイルス感染症に備えた支援に関する要綱の策定について

議事内容

(1) 次期えにわ障がい福祉プラン（案）について報告を行う。

質疑なし

事務局案のとおり承認

(2) 恵庭市障がい者相談支援事業の公募結果について報告を行う。

以下、質疑応答

【委員】今までの課題でもあった「わかりづらさ、入りづらさ」の改善点を令和3年度から何か考えているか。

【市】これまでに法人の努力で入口に看板の取り付けや、パンフレットの作成などを行っているため、令和3年度から改めて入口を改修するなどといったことは考えていない。周知についてはアンケート調査からも「どこに相談に行ったらわからない」といった意見をいただいているので、パンフレット等を活用して自立支援協議会においても広く周知していきたい。

【委員】市が委託する総合相談支援センターであるが、光風会の建物の中にあるため、市の総合相談支援センターという認識が市民に広まっていけないように感じる。やはり「わかりづらい・入りづらい」というのが課題であると思う。今後、様々な相談が総合的に寄せられてくると思う。また、相談支援事業に関しては国からも力を入れていくように言われているとても大事な事業であると思うので、あの場所が市の総合相談支援センターであるということをPRしてほしい。誰もが入りやすく、相談しやすい場所にしていただきたい。

【委員】10年以上前になるが相談支援事業を始めるにあたって、プロポーザルなど事業者の選定に関わってきた。当初、グリーンベルトの向かいに事業所があったが、経緯があり様々な理由から総合的に判断して現在の場所に移った。また、私も一障がい者として、入りにくいと感じたことはなかった。市は市民に対して広報などで周知していると思うので、利用したいと思ったら市の窓口を通じて問合せすることもできる。今後、市と運営法人、当事者団体などが連携してより良い相談支援事業として変えていければと思う。

【市】相談支援事業は大変重要な事業であると思う。相談の入り口が市の障がい福祉課であっても子ども家庭課であっても、介護福祉課であっても、総合相談支援センターであっても、利用者のニーズに添えるように連携していきたいと考えているのでよろしくお願いいたします。

【委員】次期えにわ障がい福祉プランについては良いと思っている。北海道知事により委嘱された地域相談員はいるが、障がいのある方からの相談件数は年々減少傾向にある。次年度からの計画期間中に、できれば市に3障がい（身体・知的・精神）の相談員を常駐させて様々な対処ができるようにすれば、市民にとってより有効なものになると思う。障がい福祉の窓口だけでなく様々な窓口で高齢の方が若い職員に大声をあげていることをよく見かける。年配の相談員が対応すれば、それぞれの障がいについて打ち解けて和やかに話ができると思う。行政として近い将来考えていただければと思う。

(3) 農福連携事業について報告を行う。

質疑なし

(4) 恵庭市手話言語条例による施策を推進するための具体的取組みについて報告を行う。

以下、質疑応答

【委員】農福連携事業や恵庭市手話言語条例の具体的取組みについて、大変よく頑張ったと関係者や当事者をほめてあげたい。それぞれがよく理解して取り組んでいると思う。

(5) その他

恵庭市介護事業所及び障がい事業所における新型コロナウイルス感染症に備えた支援に関する要綱の策定について報告を行う。